公開版

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価　課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	日本および米国における基質拡張型 β ラクタマーゼ産生腸内細菌科細菌の分子疫学的解析-過去 20 年間の変遷 / Evolution of Extended-Spectrum Beta-Lactamase-Producing Enterobacteriaceae in the US and Japan Over the Past Two Decades
研究開発機関	京都大学　大学院医学研究科
研究開発代表者	長尾　美紀
研究期間	令和 1 年 9 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- 疫学解析とゲノム解析については当初計画を達成できた。得られた研究成果は薬剤耐性菌研究の基礎資料となるものであり、社会的にも意義のある結果である。今後もこのような研究をつなげていくことで、薬剤耐性菌の進化過程をトレースすることができ、ひいてはより効果的な治療法などにつながる可能性がある。日米の連携研究の遂行という意味で、日米医学協力計画のための取組に資するものであったと言える。
- 現在、論文執筆中とのことではあるが、専門学術雑誌への発表や学会での講演及び発表など科学技術コミュニケーション活動の今後に期待する。
- 本領域の趣旨に合致した研究が計画に沿って適切に遂行されたと評価される。今後、より大型の研究費による共同研究の発展を期待したい。

弱み：

- COVID-19 の影響で、日米間相互訪問による研修や技術交流は行うことができなかった。日米両方の菌株の解析は行われたが、日本側が検体やデータを受け取っただけであるのか、日米のグループ間でどこまで有機的な連携研究が行われたかがよくわからない。薬剤耐性の種類はたくさんあり、その一部を解析した研究成果である。